



財務モデリング講座
ケース「エスプレッソマシン」
第4回

PL モジュールの構築法 (復習)

- 財務諸表の項目が決まったら、各項目に対してモデルツリーを作成し、モジュールとして展開をする
- **モジュールの構築においては、絶対に途中で数式を変えてはならない**
- 数式を変えたい...と思ったら99%の場合
フラグとIF関数を併用することで統一した数式を構築できる

第4回目講義のトピック

- 一般的な PL モジュールの構築法 (2)

時点フラグの構築法 (復習)

=AND (**PeriodFrom** <= EventDate, EventDate <= **PeriodTo**)

- AND 関数の中で、PeriodFrom と PeriodTo で EventDate を挟み込むサンドイッチを作る
- PeriodFrom -> PeriodTo の順番を守ることとイコールを必ず入れることがコツ

期間フラグの構築法 (復習)

=AND (**PeriodFrom** <= EndDate, StartDate <= **PeriodTo**)

- 時点フラグと同じく、AND 関数の中で、PeriodFrom と PeriodToで Date を挟み込むサンドイッチを作る
- 慣れない内は、StartDate、EndDate の順番で作って最後に EndDate、StartDate にひっくり返すのがコツ

フラグモジュールの構築

実演

地方売上モジュールの構築

実演

モジュールのインプットについて注意すべき点

**本来は連動しているべき項目を
独立したインプットとして設定しない**

販売手数料モジュールの構築

実演

モジュールについての留意点

モジュールはアウトプットと原則 1 vs 1 しているが、
モジュールのアウトプットが1つとは限らない

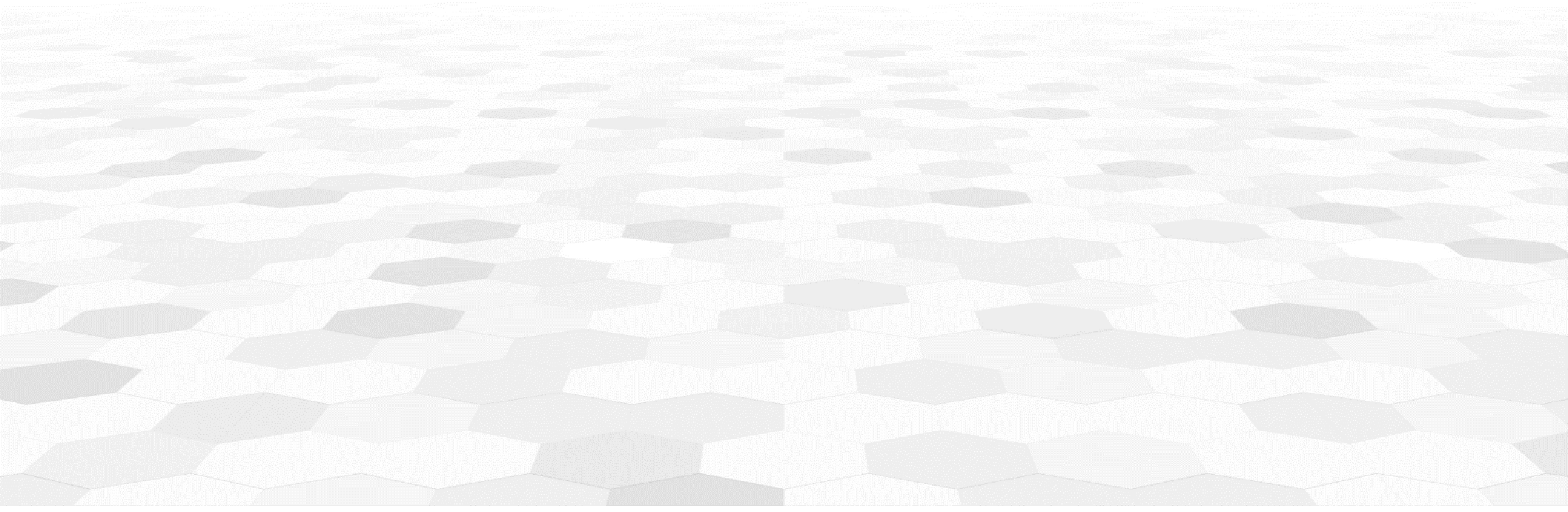
Tips – 実務小ネタ

- モジュールの中にサブモジュールが1つしかない場合はサブモジュールヘッダを省略できる
- 「=-」のように、イコールのすぐ後にマイナスがつく場合は「=0-」と記述して符号の逆転を明示的に示す

講義まとめ

- モデル内でよく使用するフラグを構築する際には、別モジュールとして独立させておくと便利
- **本来は連動しているべき項目を独立したインプットとして設定しない**
- モジュールはアウトプットと原則 1 vs 1 しているが、モジュールのアウトプットが1つとは限らない

質疑応答 - Q&A





財務モデリング講座
ケース「エスプレッソマシン」
第4回

終了